





## 解説

この絵は、江戸時代の地誌『江戸名所図会』に描かれたものです。谷保天満宮の近くにあった「清水の茶屋(立場)」は甲州街道を旅する人々が休憩した茶屋です。

絵には、夏の暑い日に、そうめんを清水で冷やして、旅人をもてなす様子が描かれています。また、食べ物だけではなく、旅に必要な、わらじや薬も販売していたことが絵からわかります。

※立場は、宿場と宿場の間の休憩地点のこと

